

地域における救急医療の現状と今後の在り方

1年3組 利根 大河 1年2組 木田 澄世

1年2組 芳谷 桜 1年4組 安永 周平

1年2組 安田 明莉

指導者 教諭 若山 勇太

1 課題設定の理由

「たらい回し」の事件が広く知られ、救急医療について全国的に様々な問題点が報じられている。私たちが住む南予地域の救急医療は大丈夫なのか、その不安を抱いたことがこの研究を始めたきっかけである。普段ほとんど耳にしないこのテーマは、私たち市民の命に関わる重要なテーマである。緊急時に「市民」が症状を正しく判断し、救える命を救うための一助としたいと思い、この課題を設定した。

2 仮説

1学期の授業の中で、南予地域では少子高齢化の傾向が著しいことを学んだ。それを踏まえて、次のような仮説を立てた。

- (1) 医療従事者が不足しているにもかかわらず、その一方で患者が増加し、救急医療に対応できない場合があるのではないか。
- (2) 私たち高校生（市民）にもできることがあるのではないか。

3 研究の方法

- (1) 愛媛県の救急医療体制の把握

えひめ医療情報ネットなどを活用し、初期～三次救急の医療体制についてまとめた。

- (2) 集団討論

- ① 妊婦たらい回し事件（『妊婦たらい回し』の真相』小田修司，日経メディカル 2007.10）
文献を読み、事件が起こった背景、問題点について討論した。

- ② コンビニ受診について

一般市民の行動が高次救急患者の命に係わることから、コンビニ受診にも焦点をあて、要因、改善策について話し合った。

- (3) 特別講演「脳卒中からの人間回復」

酒向正春先生（本校 OB／世田谷記念病院 副院長
回復期リハビリテーション長）の講演を聞き、市民としてできることはないかを考察した。

- (4) その他

- ① ER 専門医（番組視聴）
- ② 地域災害における医療救護で求められること（討論）
- ③ 救急医療情報キットについて（資料学習）

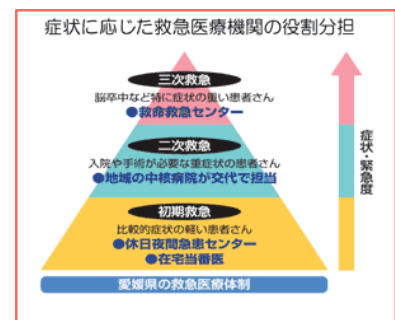


図1：愛媛県の救急医療体制

（出典：愛媛県庁/愛救143運動）

4 結果と考察

- (1) 愛媛県の救急医療体制

愛媛県は患者の疾病に応じ、適切な治療が提供できるよう図1のように段階を構築している。仮説(1)のような案件は調査した中では見つからなかった。愛媛県南予地域の各市町村の救急医療機関に関するデータと愛媛県における症状の程度別の患者比率を図2～3に示した。

図2から南予地域は松山市と比べて二次救急医療機関が少なく、市立宇和島病院（三次）の役割が大きいとと言える。また、愛媛県内の患者の8割近くは「軽症患者」である。南予地域においては、市立宇和島病院に一極集中しないように、「市民」一人一人が適切な判断をすることが求められている。

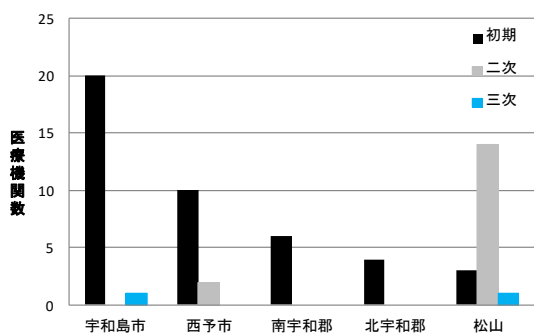


図2：南予地域の救急医療機関（比較対象：松山市）

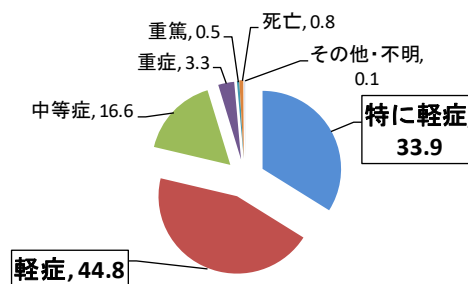


図3：愛媛県における症状の程度別の患者比率

(2) たらいまわし事件

救急医療体制を知らず、初期救急患者が三次救急機関である救急医療センター駆け込む、救急車を不適切に利用するなど、本当に急を要する三次救急患者が受け入れられない。私たち市民が病状を正しく判断し、適切な救急医療を利用することが求められている。まずはかかりつけ医や、症状に応じた医療機関をあらかじめ決めておく必要がある。

(3) コンビニ受診

医師（勤務医）不足という状況の中、仕事などを理由に平日の時間外受診が増えている。また、図3より患者の多くが軽症であることから、改善策として以下の点を心掛ける。

- ① 時間外の受診を避ける
- ② 軽症の場合は救急の機関の利用を控える
- ③ 定期健診を受け、自分の重症度の基準を見つける
- ④ 救急医療電話相談などのサービスを利用する など

(4) 特別講演「脳卒中からの人間回復」

医療は医療機関だけでなく、地域の環境などもその一環であり、地域の整備（講師の酒向正春先生は「ヘルシーロード」を提案されていた）が回復に繋がるということが分かった。

5 まとめと今後の課題

- (1) 私たちの行動により、一人の救急患者の生死を揺るがすときもある。初期・二次・三次救急のかかりつけ医を把握しておくなど、救急医療に関する心構えをしておく必要がある（『えひめ医療情報ネット』が有効）。また、定期健診を受け、あらかじめ自分の重症度の基準を見つけるなど、救急時に適切な行動をとれるよう普段から準備しておくことが大切である。
- (2) これからの地域医療を担うのは医療従事者だけではなく「市民」一人一人であることが分かった。これらの情報を発信していき、市民の啓発に繋げていきたい。

参考文献

- ・えひめ医療情報ネット <http://www.qq.pref.ehime.jp/qqscripts/qq/qq38.asp>
- ・愛媛県庁/愛救143運動 http://www.pref.ehime.jp/h20150/kyukyu_syoni/iq.html
- ・小田修司（2007）『「妊婦たらいまわし」の真相』日経メディカル 2007 10:p47
- ・市立宇和島病院地域連携室編（2013）「地域に貢献する病院を目指して」『広報うわじま』5:p24